

教育目標	<p>夢中になって遊ぶことを通して 自分の思いを伝え合い 人やものを大切にする子どもの育成</p>
年度末の最終評価	
自己評価	<p><b>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</b></p> <p>教育目標はおおむね達成できたと考えている。子どもたちが、人やものと関わりながら遊びこむことを通して心身共に豊かに成長をしていくために、常に子どもに寄り添い、子どもの願いや思いを大切にしたい具体的な実践を行い、その姿をもとに園内で研究することにより、保育の質を高めるよう努力してきた。その結果、保護者からは、前期後期ともに、子どもの成長の姿や実際の教職員との関わりでいい評価を得られた。子どもたちが伸び伸びと楽しそうに遊んでいる様子を見て、『翔鸞幼稚園に来てよかった』という声を多く聞くことができた。この評価結果に甘んじることなく、さらに研究を積み重ね、一人一人の子どもの特徴を踏まえつつ成長を促せるような取組を進めていきたい。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>保護者からは、毎回、幼稚園の取組に対して高い評価になっている。これは、子どもたちがのびのびと遊んでいる様子からうかがえる。子どもたちが楽しく遊びこむよう研究されていたようで、ソニーの賞をいただいたことは喜ばしいことである。地域との行事や取組とし、苗屋さんは以前のように取り組むことができた。</p>

## 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和4年10月25日	学校運営協議会理事
最終評価	令和5年3月7日	学校運営協議会理事

## （１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢中になって遊ぶ子どもの姿から、教師自身が子ども達の「やってみたい!」から生まれる「もっと〇〇したい!」につながる教師の援助や環境構成について実践し、エピソードやミニエピソードをとり、研修を行う。</li> <li>・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に着目して、子どもの姿から一人一人に対するねらいをもち、それを達成するために必要な環境づくりや援助をする。また、子どもの姿から教師の援助や環境構成を評価し、再び保育に返していく。</li> <li>・研究保育や事例研修を通して園内研究を深め、保育を振り返りながら、教師の力量を高めていく。</li> <li>・支援を必要とする子どもに対する支援の在り方を軸に、個々の子どもに対する適切な支援を共通理</li> </ul>
--------	---

<p>解の下で行い、園全体で継続的に育ちを見取っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園生活全般を通して、安心感・安定感や親しみをもって人と関わりながら活動できるようにする。(友達や兄弟グループとの関係・教職員と関係・地域や小学校との関係)</li> <li>・いろいろな遊びや活動を通して、お互いの気持ちを受け止めたり、譲り合ったりする気持ちを大切にできるような話し合い活動を確保する。</li> </ul>
<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児の遊ぶ姿の変容・週案の反省、園内研究の記録、毎月の子どもの姿・事例検討</li> <li>・アンケート項目「自分から遊びを見つけて元気に遊んでいる」「先生はメリハリのある保育をしている」「登園を楽しみにしている」</li> <li>・アンケート項目 「先生や友達と関わろうとしている」「自分の思いを話そうとしている」「子どもは相手を意識したり思いやったりする方向に発達していつている」</li> </ul>

## 中間評価

<p>各種指標結果</p> <p>どの評価項目においても「そう思う」「だいたいそう思う」の回答が合わせて100%であった。</p>	
自己評価	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育については、日々の実践の中に園児の心の動きに着目し、その前後の行動をエピソードとして研修し、蓄積している。また、全体の援助や個々の園児に対する適切な援助について、担任を中心として教職員が共通理解を図り、取り組んでいる。一人一人に寄り添い、適切な援助や支援を行っていることが、いい評価に結び付いていると考えている。今後も子どもが遊びこむ中で様々な力をつけていけるよう環境構成を工夫し、将来に渡って身につけたい力を育めるよう保育について研修を深めていく。</li> </ul>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園内研究や中堅若手研、幼教研などの機会を利用して研修に励み、その中で新たな題材、環境設定・援助を学び、心が動かす声かけや取組を見つけ、本園の園児に実態に合ったものを実践、研究していく。</li> </ul>
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>各評価項目においての回答が前回並みに高い評価となることで、日々、改善に取り組んでいることが評価されたと考える。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの登園の様子や保育時間の遊びの様子を見てみると、園児がこの幼稚園に安心して登園している様子が伝わってくる。</li> <li>・子どもと教職員の関係性や保護者との関係性も良好な様子である。</li> <li>・園児数の減少が気かりだが、保護者の中には、教員一人当たりの園児数が少ないことを肯定的にとらえている人もいるのではないかと。</li> </ul>

## 最終評価

<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>エピソード研修は各クラスごとに行い、今年度は「ときめき」「ひらめき」という心の動きに着目して、「科学する心」が芽生えるときをとらえたエピソードを持ち寄って研究した。昨年度に引き続き、ソニーの研究論文を発表するため、昨年度からの研究成果や今年度の取組をまとめたり、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿や幼児期において育みたい資質・能力との関連を考えることで研究</p>
---

を深めた。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 園内研究やエピソード研修を元にして日々の保育を振り返ることにより、実践の積み重ねが保育や子どもの成長・充実感に現れ、保護者の高評価につながったと考えられる。主体的・対話的で深い学びを追究するとともに、「科学する心」という視点も引き続き研究し、小学校や中学校でのSTEAM教育につなげることができれば、と考えている。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 今年度の取組を継続・発展させるために、研究の方向性は次年度も継続して行うことが大切である。教職員が変わろうとも、子どもの心の動きをとらえ、子ども一人一人に届く保育実践を目指していく姿勢を大切にしていきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 子ども達の様子や幼稚園の取組について、行事を中心に見せてもらっている。子ども達が、伸び伸びと生活し、友達とも楽しく過ごしているので、本当にいい幼稚園だと思う。その中で、研究もされ、表彰されたことは本当に喜ばしい。 園児数の減少が気になる。仕方のないことではあるが、これ以上、一クラスの人数が少なくなった時に、近くの園と合同での取組など考えていく必要があるのではないかな。また、コロナ禍も収まりつつあるので、未就園の子どもがいる施設と連携して、幼稚園を見に来ていただく機会を増やすと園児獲得につながるのではないかな。

## （２）幼小連携・接続に関して

<b>具体的な取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・翔鸞小学校１年生と年長児で、縦割りのグループをつくり、教育課程に沿って年間を通して幼小交流を実施する。（管理職、担任同士で連携を密にとる）</li> <li>・１年生担任と幼稚園が連携を取り、スタートカリキュラム実施期の授業等を観察し、１年担任の指導の振り返りを週末の時間に設定して意見交流を行う。この取組を整理して幼小合同研修を行うことで、幼児期の子ども達の育ちや就学後の子ども達の姿や育ち、教師の指導について共有し、それぞれの学校・園での指導に生かす。</li> </ul>
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画の作成および定期的な小学校との打ち合わせ</li> <li>・小学校からの研究保育への参加</li> <li>・授業参観などの学校行事への参加</li> <li>・スタートカリキュラムにかかわる夏季幼小合同研修会の実施（夏季休業中）</li> <li>・アンケート項目「幼稚園は小学校とよく関わっていると思う」「小学校との連携が子どもの育ちにつながっていると思う」</li> </ul>

### 中間評価

<b>各種指標結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年間計画の作成は小学校１年生の担任、教務主任を交えて行うことができたが、定期的な打ち合わせは実施できず、必要な時に連絡を取り合って実施した。</li> <li>・小学校からの研究保育参観は実施できなかったが、授業参観には園から数名の教員が参加した。</li> <li>・下記合同研修会はオンラインであるが実施できた。</li> </ul>
--

・アンケート項目の指標は次回も同じ内容とする。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初の計画通りとはいかなかったが、できる範囲での交流を行った。苗屋さんでは、感染症対策を行いながら小学校1年～3年と育成学級に参加してもらった。</li> <li>・教員同士は合同研修会を開催し、今年度は、架け橋プログラムの説明と幼稚園の教員が小学校1年生の学級で行った出前授業や1年生と6年生の交流の様子を共有した。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員同士の交流（打ち合わせや合同研修）は、双方の様子を知り、それぞれで授業や保育を改善するうえでも意義があるので、今後も継続して取り組んでいく。感染症対策を講じながら、無理のない範囲でお互いの授業・保育を参観する。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> 指標自体は変えない。後期に取組ができるとその部分で評価していただく。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ、毎日のように校長と園長が顔を合わせ、話できていることが一番の強みであると思う。</li> <li>・小学校の先生に足を運んでもらえるようにしてはどうか。</li> </ul>

#### 最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> アンケート項目「幼稚園は小学校とよく関わっていると思う」「小学校との連携が子どもの育ちにつながっていると思う」の回答結果は、100%の方から「そう思う」「だいたいそう思う」の評価をもらっている。	
自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 架け橋プログラムを見据えて、コロナ禍以前の取組も復活させつつ、さらに新しい取組として出前保育やその時間を利用しての小学校1年生の観察を行った。子ども同士は1年生の授業への参加や苗屋さんの小学生の参加で交流できた。教職員は、管理職同士や一年担任と幼稚園教諭が折に触れて情報交換を行ってきた。すぐに行き来ができるので、行事なども小学校の教頭先生や教務主任の先生と連絡を取り合い、進めることができた。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 今年度の取組を発展させるには、交流行事を増やすことである。教員や子どもたちが行き来する回数が増え、お互いの理解を深め、共同して研究できることを模索していきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 子ども同士の交流も形を変えながら取組を進めてほしい。先生同士が研修し、交流しているところが、翔鸞の良さだと思う。

#### （3）預かり保育に関して

<b>具体的な取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長時間生活する預かり保育が、利用する子どもたちにとって安心して過ごせる場所になるように環</li> </ul>
---

<p>境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者にとって、安心して仕事ができるための預かり保育になるように安全に配慮して保育を行う。</li> <li>・地域の方や大学生と連携をして、取組ができるように企画・調整していく。</li> </ul>
<p><b>（取組結果を検証する）各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート項目「預かり保育を安心して活用している。」「子どもは、預かり保育で楽しく過ごしている。」</li> <li>・地域の方や大学生との関わりを通して、どのような企画を立てることができたか。</li> </ul>

#### 中間評価

<p><b>各種指標結果</b></p> <p>アンケート項目の結果はどちらも「そう思う」「だいたいそう思う」合わせて90%を超えている。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育を利用することで就労できるという安心感がある。</li> <li>・子どもたちは異年齢集団で人間関係をつくり、その効果が遊びの中でも表れている。</li> <li>・遊びの工夫や遊具の整備などで子どもたちが安心して過ごせる環境ができていた。</li> <li>・今後も一人一人の個性や体調に留意し、過ごしやすい環境を整える。</li> <li>・今年度も昨年同様、同志社大学SAPにきてもらって取組ができた。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・より一層の工夫と遊びこめる環境づくり。</li> </ul>
	<p><b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>指標は特に変えません。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育を利用している家庭が半数以上ということで、保護者の就労が増えていると実感しているが、何のための就労か、生活に本当に必要であるか、家庭内のことは分からないが、子育てよりも優先する必要があるか、疑問を持つこともある。</li> <li>・預かり保育の時間帯も安心・安全な環境で楽しく過ごせるようお願いします。</li> </ul>

#### 最終評価

<p><b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b></p> <p>新2号認定の子ども達は、8割程度利用している。18時まで預ける家庭も多いと感じるが、落ち着いて遊んでいる。</p>	
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b></p> <p>働いている保護者にとって安心できる場所であり、親の用事やリフレッシュしたい時の預け先として位置づいていると思われる。支援が必要な子どもたちが預かりを利用することが多くなり、体制が厳しい。</p>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>引き続き、預かり保育だからできる遊びや遊具を整備し、楽しく過ごせるようにする。</p>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <p>働く保護者にとって、預かり保育があることは、大切だと思う。</p>

価	
---	--

#### （４）子育ての支援に関して

<b>具体的な取組</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 週３回の未就園児対象の教育相談（たんぽぽ組）や園庭開放を継続して行う。</li> <li>・ 毎月の教育相談や園庭開放の予定をホームページに載せるだけでなく、お便りにして、児童館や図書館、小規模保育施設などに配布して情報発信を行う。</li> <li>・ ＰＴＡが主体となって「子育て語り合いサロン」を企画し、情報を発信する。</li> <li>・ 子育てが困難とみられる保護者に対して支援する体制を作り、その困りの解決に向けて、専門機関を紹介し、幼稚園と共有していく。</li> </ul>	
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談回数及び参加人数、参加者の声</li> <li>・ 未就園児担当の子育てボランティアの方と管理職が週に一度、未就園児について話し合う。</li> </ul>	

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教育相談（未就園児クラス・たんぽぽ組）は毎週３回実施した。</li> <li>・ 小規模保育施設や保育所、児童館に毎月、エピソードを含む予定表を配布した。</li> <li>・ 各種専門機関とも連携して支援を行う。</li> </ul>	
自己評価	<b>分析（成果と課題）</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園説明会のときに人形劇や手遊びの会を開催したり、音楽付きの読聞かせに未就園の親子を招待したりしているが、参加者は少ない。</li> <li>・ 上記の取組後、子育て語り合いサロンを実施しているが、参加者は少ない。</li> <li>・ 発達に課題のある園児については保護者と連携して関係機関につないでいる。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未就園の施設などと連携して、取組を広報し、子育てを支援するとともに、園児の獲得にもつなげていきたい。</li> </ul>
	<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子育て支援の取組を継続していく。</li> <li>・ 子どもの発達課題と子育ての不安などは、関係機関と連携して取り組む。</li> </ul>
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 幼稚園でのたんぽぽ組の取組や在園児の保育の様子を見てもらえれば、幼稚園への入園希望者も増えるのではないかなと思う。</li> <li>・ 子育て支援の取組を継続していく。</li> <li>・ 子どもの発達課題と子育ての不安などは、関係機関と連携して取り組む。</li> <li>・ 園児獲得のためには、夏休みも実施すべきではないか。</li> </ul>

#### 最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> <p>新規登録者が減少傾向であり、入園希望者も増えていない。</p>
--

自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 未就園組に登録している子どもは弟妹を除くとほとんど入園に結び付いていない。土曜日や給食、通園バスなどの問題が原因のようである。地道に翔鸞幼稚園の良さを発信していくしかない。在園児の保護者の声が未就園の保護者に届くようにしていきたい。引き続き、周辺地域にある小規模施設などに、おたよりを発信していきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 未就園児組の取組を定期的・継続的にを行うことを大切にしていきたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> ・少人数ながらも、幼稚園に来て、在園の子ども達と一緒に過ごすことで、翔鸞幼稚園の雰囲気は親に伝わっていくと思われる。引き続き、一人でも多くの子ども達が利用できるように、身近に入園前の子どもがいる保護者に声掛けをするようにしたい。

#### （５）地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<b>具体的な取組</b> ・地域の人々との交流を主とした活動を取り入れて年間指導計画を作成する。 ・地域の方々の意見を聞き、その意向を反映した取組を計画する。
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b> ・アンケート項目「幼稚園は、地域の方と行事や取組でよく関わっていると思う。」 ・学校運営協議会や地域の各種会合において、地域の方々の意見を聞く。

#### 中間評価

各種指標結果	
・ 3年ぶりに「苗屋さん」に地域の方に来ていただき、お手伝いしてもらった。	
・ 地域の行事もまだ実施できていない状況なので、地域と連携した行事には取り組めなかった。	
自己評価	分析（成果と課題）
	・ 学校運営協議会会長（小学校では委員）や委員の方、また、小学校の校長とはほぼ毎朝話をし、小学校と幼稚園の情報を共有している
	分析を踏まえた取組の改善
	・ 地域と連携した行事は感染症対策を講じながら取り組めるか考えていく。
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	・ 地域との連携ができるか模索する。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	・ 地域の行事も昨年に引き続き中止になったり、代替の行事をしている状況であるが、学校運営協議会は、実施できてよかったのではないかと。 ・ 幼稚園の環境がよくなるよう、剪定などを実施してきている。引き続き要望があれば応えていきたい。

#### 最終評価

<b>（中間評価時に設定した）各種指標結果</b> ・今年度は苗屋さん以外に地域の人と交流する場面がなかったので、次年度は行事などに来ていただくなど、機会を増やす。
---

自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b> 苗屋さんの取組にお手伝いいただいたことがとてもよかった。子どもたちのやる気につながり、地域理解にもつながった。サンタクロースや節分の鬼などでご協力いただいた。学校運営協議会の理事さんとは、毎朝小学校の校門でお会いするので、情報交換ができています。次年度も続けていきたい。
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b> 次年度は、地域行事への参加や園の行事への招待などで交流を図りたい。
学校関係者評価	<b>学校関係者による意見・支援策</b> 今年度も、小学校や幼稚園の子ども達が参加できる行事がほとんどできなかった。次年度から地域行事をどうしていくか、元のように行事ができれば、地域との関わりが増えていいのではないかと。園だよりやホームページを通して、子ども達の様子は見えています。

#### （６）教職員の働き方改革について

<b>重点目標</b> ・教職員一人一人が勤務時間を意識し、保育終了後の時間を計画的に、有効に使い、教材研究や事務処理を行う。
<b>具体的な取組</b> ・毎週水曜日は「ノー残業ディ」に位置づけ、定時に帰宅するように努める。 ・電話対応時刻を午後６時までとする。 ・帰宅を促し、午後７時頃施錠できるように努力する。 ・年休や割振り、回復が取れるように長期休業中の取組を精選する。 ・校務支援員と連携を図りながら、教頭や担任の仕事の一部を補助してもらいやすいよう計画する。
<b>（取組結果を検証する）各種指標</b> ・超過勤務の時間数 ・年休の取得状況（年休を５日はとる）

#### 中間評価

<b>各種指標結果</b> ・超過勤務時間は、２名が４５時間を超えている。 ・年休は、ほぼ予定通りの消化できている。 ・保育内容の試行錯誤や次の日の準備のため、勤務時間を超えてしまっている。
<b>自己評価</b> <b>分析（成果と課題）</b> ・校務支援員は担任の負担軽減になっている。 ・園長と担任をもっている教頭の勤務時間が長い。
<b>分析を踏まえた取組の改善</b> ・資料は次年度に引き継ぐ。
<b>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</b> ・超過勤務の時間と年休取得状況



学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	・働き方改革を進めるのは当然のことで、教職員も余裕をもって、ゆったりした気持ちで園児と関わってほしい。地域として協力や支援はやっていきたいので、遠慮なく声をかけてほしい。

## 最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果
	<p>超過勤務時間は、毎月2名の教員が45時間を少し超える程度で抑えられたが、管理職は改善が必要である。</p> <p>年休の消化については、ほぼ予定通りである。</p>
	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>担任と教頭との兼務については勤務時間の削減がやはりむずかしい。行事前や研究に関わる取組をしている時は、時間を超えてしまうが、成就感や満足感はある。預かり保育担当の非常勤講師が怪我で休んでいたため、事務的な作業が多くなり、また、預かり保育に入ることもあったため、時間数が増加した。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>研究や行事についても効率化を図り、勤務時間の削減に努めたい。</p>
	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>施設の整備や樹木の剪定などお手伝いできることがあれば言ってください。</p>